

甲子園短大 木水 禮子 ○藤井 喜美

《目的》 制服着用下における女子中学生、高校生、短大生の下着着装の実態調査をもとに着用下着の色柄、着用目的、購入条件など下着の着用意識について考察を行なった。

《方法》 第1報と同様、質問紙により、調査当日制服の下に着用している下着について調査した。短大生については、平成3年から5年にかけて、各、夏、秋、冬の3シーズンに調査を実施した。

《結果》 着用下着の色は、全体として白が多く用いられているが、肌着としてのパンティ、タンクトップでは白、ピンクの他、多種類の色が着用され、またパンティでは、多種類の柄物も用いられている。着用目的については、ほとんどの下着を『肌に直接付けて衛生を保つ』について『習慣』がら着用している者が多い。ブラジャー、スリッパなどの下着においても『肌に直接付けて衛生を保つ』が1位であり、本来の機能である『体型補正』や『表着とのすべりをよくする』が2位、3位にランクされている。これは第1報で報告したが着用下着の簡略化と関連があると思われる。購入条件としてはまずサイズをあげている。下着を購入する際、まずサイズをチェックするのは当然であり、さらに機能性、素材などの実用面だけでなくデザイン、色などもあわせて選択していることがわかる結果である。着用下着の満足度については97%近くの者が満足または特に問題なく普通に着用している。これらの結果より、制服着用下における下着について可もなく不可もなく習慣的につけている学生が多く、着用下着は極度に簡略化され、下着本来の目的が失われつつあり、特に下着を意識して着用しているのではなく肌の一部としてつけているように思われる。